

# ナバリスト 24

富所 真一 さん

アトリエ彩 アーティスト

とみどころ しんいち ● アーティストとして活動を始めて5年目の若きホープ。特別支援学校 伊賀つばさ学園に通っていた時に訪れたことをきっかけに、卒業後にアトリエ彩に所属。生き物図鑑などから着想を得て、動物や昆虫などのモチーフを多彩な色使いで表現する作品にはファンも多い。



富所真一



カフェ輪で販売する作品は全て一点物！じっくり選んで何枚も購入するファンも



お気に入りの作品はファイルに入れて、大切に保管



何度も見本を確認しながら真剣に描く。細かい描写で立体感を表現するのが好き

## 絵を描くのも、自分で描いた絵を見るのも、大好き。

いつから描き始めたかは覚えていないけれど、小さい時から自分の描きたい物を好きなように描くのが大好きでした。図鑑や雑誌から描きたいモチーフを決めて、しっかりと観察してから描き始めます。カッコいい模様は目立つ場所に移動させたり、見本と少し変えてみたりすると、不思議と面白くなってくるんですよ。色を塗る時も見本のまじやなくて、違う色を入れたら面白いかな、と工夫しながら描いています。僕の描く生き物は現実にはいないですが、いたら楽しいですよー！

家でも絵は描くけれど、「アトリエ彩」で描く方が落ち着けるので好き。毎日バスで通っています。「和紙やダンボールに描いたら面白いかも」「細かいところもしっかり見て描いてみたら？」、「大きいキャンバスも使ってみよう」「職員さんがいろいろ提案してくれるので、作品の幅が広がってきました。描きたいモチーフが思いつかずにモヤモヤする時もあります。そんな時は他のアーティストたちと運動やゲーム、音楽などで気分転換します。僕は、部屋を薄暗くして、いい香りの入浴剤を入れたお湯でリラックスする足浴が好きなので、いつも率先して準備しています。

元々は小さい紙に描くのが得意でしたが、今は少しずつ大きい紙に挑戦中。見本を見ずに記憶を頼りに描くなど、今までなかったことにチャレンジするのが楽しいです。クレヨンが小さくなる、自分が頑張っているんだなって思えて嬉しいですね。絵を描くのと同じくらい、自分の絵を眺めるのも好きなので、作品は全部僕の宝物。自分の絵を他の人に見てもらえるのもすごく嬉しい！これからもいっぱい作品を描いていきたいです。

## 編集後記



名張のひと・活動

障害福祉サービス事業所では、暖かな支えの中、生き生きと活動している人の姿を拝見し、ものすごく元気をもらいました。写真撮影もめっちゃくちゃ喜んでもらえてうれしかったな（たか）

暖かい日が増えて嬉しい反面、鼻がむずむずする日も増えました。姪に「杉の木ってどれ？」と聞かれ辺りを探すも見当たらない…なのにもむずむず。植物の生命力ってすごいですね（くま）

今回取材したのは、市内事業所のほんの一部。商品の袋詰めや部品の検品など、障害のある人が関わる商品は、実は生活に溶け込んでいっているんだそう。私もいつの間にか、つながっているのかも（はる）

友人宅に遊びに行った際、「地元産コーナーのアスパラおいしいよ」と振る舞ってもらったアスパラベーコンに感動した去年の春。今年も食べるぞ！地元産コーナーをチェックします（はな）

